

短 報

看護実習室における実習室助手の支援の現状

荒木麻奈美¹⁾ 佐居 由美¹⁾ 中田 諭¹⁾ 馬場 香里¹⁾
 賀数 勝太¹⁾ 高妻 美樹¹⁾ 桑原 良子¹⁾ 森島久美子²⁾

The Current Status of Support by Nursing Skills Lab Instructors in Nursing Learning Labs

Manami ARAKI¹⁾ Yumi SAKYO¹⁾ Satoshi NAKATA¹⁾ Kaori BABA¹⁾
 Shota KAKAZU¹⁾ Miki KOZUMA¹⁾ Yoshiko KUWABARA¹⁾ Kumiko MORISHIMA²⁾

〔Abstract〕

Since 2014, the St. Luke's International University College of Nursing has assigned full-time Nursing Skills Lab instructors who are familiar with the curriculum and ward training to support students' self-study habits and to improve the laboratory environment. Based on the results of the 2019 survey, we created a schedule to make it easier for the assistants in the Nursing Skills Lab to respond during times when students are likely to use them, as well as a notice system to make it easier for nurses to understand the occupancy status. Self-study support encourages students to prepare themselves with teaching materials, emphasizing the importance of the habit of self-study, and it forms a relationship with students that allows them to ask questions in their own words. In addition to self-study support, we also provide support for job hunting and practical training. A survey conducted in 2019 found that the number of students who answered that the support of the Nursing Skills Lab instructor was helpful was higher than the year before. In the future, we would like to continue to support students' needs by informing students in the grades that rarely use them of the availability of Nursing Skills Lab instructors.

〔Key words〕 nursing learning lab, nursing students, nursing skills lab instructor, role

〔要 旨〕

聖路加国際大学看護学部では、2014年度からカリキュラムや病棟実習に精通した実習室専任の助手を配置し、学生の自己学習支援および実習室環境整備に対応している。2019年度は実習室アンケートの結果を踏まえ、学生が多く利用すると考えられる時間帯に実習室助手が対応できるようスケジュールを組み、在室状況を分かりやすくするための掲示物を作成するなどの工夫をした。自己学習支援を行うにあたって、学生が主体的に学ぶ姿勢を重視するため教材を用いた予習を促し、疑問点を学生自身の言葉で伝えられるような関わりを持っている。また、自己学習支援以外に就職活動や実習の相談などの学生の看護キャリア形成にも貢献できている。2019年度のアンケート結果から実習室助手の支援が行き届いていたと答えた学生は2018年度と比較すると上昇していた。今後も実習室を利用する頻度が少ない学年に対して実習室助手の存在をさらに周知させ、学生のニーズに沿った支援を継続させていきたい。

1) 聖路加国際大学大学院看護学研究科・St. Luke's International University, Graduate School of Nursing Science
 2) 聖路加国際大学総務部・St. Luke's International University, General Affairs and Administration

【キーワード】 看護実習室、看護学生、実習室助手、役割

I. はじめに

昨今の入院患者の在院日数の短縮化、医療の高度化、患者の権利意識の増強などにより、看護学生が実習において体験できる看護技術は限定され、卒業時の看護学生の看護実践能力の低さが話題になって久しい。臨床看護実践能力には看護技術力が含まれ¹⁾、実習において患者に安全に看護技術を実践するには、その看護技術を学生が十分に習得できていることが大前提である。技術習得のためには、学生の能動的な学びを可能とする場と教材が必要であり、それが可能となる看護実習室の整備や人員の配置が不可欠である。

本学の実習室において2014年6月から学部生の自己学習支援を強化するため、実習室専任の助手（以下、実習室助手）が配置された。本稿では、配置され5年が経過する実習室助手の役割や実際の活動内容について報告し、学生の学びが深まるよう実習室助手の在り方について検討する。

II. 実習室助手の役割

本学では2014年6月より学部生の自己学習支援を強化するため、実習室助手が配置された。実習室助手は本学のカリキュラムおよび病棟実習の看護に精通している人物を雇用している。また、実習室支援員（看護師免許保持者）のアルバイトを週2回程度雇用し、実習室助手と協働して実習室の運営を行っている。

1. 学生の自己学習支援

1) 支援体制

実習室が利用可能な時間帯は、学生に配布されている学生生活ガイドブックにより月曜日～土曜日の大学開門時間から大学閉門15分前までと規定されている²⁾。授業のある平日であれば、大学開門の6:30から閉門15分前の19:45まで利用できる。実習室が授業科目で使用していなければ、学生はいつでも自己学習で利用することができる。そのため、自己学習に利用する学生が多いと考えられる放課後や対象学年の授業の空き時間に支援ができるよう実習室助手の在室時間を決定している。実習室助手の在室が難しい時間帯がある場合には、学部3・4年生で構成されているラーニングアシスタント（以下、LA）を配置するなど工夫をしている。

2) 支援方法

本学は看護技術習得のために、科目授業だけでなく自己学習においても学生が主体的に学ぶ姿勢を大切にしてい

る³⁾。

教科書など座学から学んだ知識を踏まえて実習室で実技練習を行うことによって、知識と実技を結び付けて理解が深まると考えられる。また、実習室助手が実際の臨床経験を基にした支援をすることで、学生が実習へのイメージが付き、実習での戸惑いが最小限になるよう努めている。

そして支援するにあたって、実習室を利用する学生に対して、まず教科書や動画教材で予習した上で自己学習をするよう呼び掛けている。それらの学生に対して実習室助手から声をかけて自己学習支援を行っているが、臨地実習を見越して、学生が自ら考え内省した疑問点や不明点を伝えられるよう支援している。

2. 実習室環境の整備

学生にとって学びやすい実習室になるように、実習室環境の整備にも組んでいる。教員による実習室小委員会の運営および、学生実習室委員会のサポートを担当し、教職員や学生の意見を反映させる役割も担っている。毎年前期に行われる実習室アンケート調査から、実習室における不足物品の補充を検討し、次年度の自己学習に活かしている。また、看護教育用シミュレーターモデル類の準備・メンテナンス、実習室利用マナーの掲示物の作成などを行っている。

III. 実習室助手の活動

以下では実習室助手が実際に行った活動について述べていく。

1. 自己学習支援の実際

毎年、学部生対象の実習室アンケート調査を実施している。実習室を利用した時間帯で最も多かった回答が放課後、次いで授業の空き時間、土曜日であることが明らかとなっている。そのため、利用時間帯を考慮し実習室助手の在室スケジュールを組んだ。それから在室状況を分かりやすくするため実習室助手が待機している自己学習支援室前に表示を作成し、運用している（写真1）。この表示により学生から積極的に自己学習支援室を訪ね、自らの言葉で疑問点を伝えて支援依頼をすることが習慣化した。そして自己学習支援室外の壁面に学生実習室委員会が作成した実習室だより等を掲示するコーナーを設けた（写真2）。学生が掲示物を見ることで実習室助手とのコミュニケーションが活発になった印象を受ける。実際に実習室助手の在室時間内の自己学習利用件数を見て

みると、2019年前期で延べ1411名（4月：225名、5月：778名、6月：184名、7月：224名）、1日平均約20名の学生が利用していた。

具体的な支援としては、2016年度より基礎看護技術論（2年次前期後期科目）の教員と実習室助手が協働し、当該科目の各演習の授業初回に技術演習と自己学習の方法や注意点を教示するという方法を導入³⁾し、継続している。2019年度は実習室助手の臨床での経験談を交えながら説明し、試験のために必要な自己学習ではなく、今後看護師として就業する上で必要な自己学習という意識づけを促すように看護キャリア形成支援にも注力した。しかし授業の初回コマということもあり、演習項目の予習が不十分な学生も多く、看護技術の一連の流れを把握していない中では自己学習方法のイメージが難しく、質の高い自己学習に繋がらないことが懸念される。自己学習の方法やタイミングについては、今後検討が必要である。

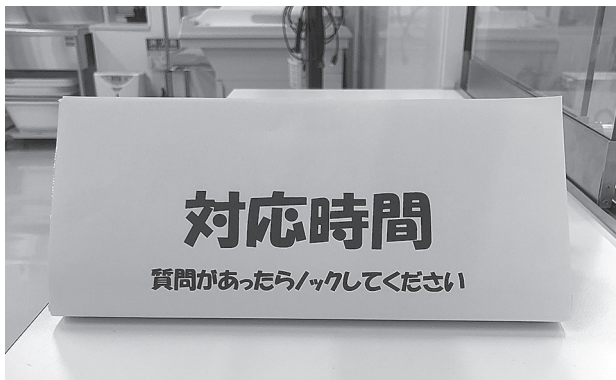


写真 1



写真 2

2. 自己学習支援以外の活動

実習室助手による自己学習以外の活動として以下の2点が挙げられる。

1) 就職活動についての相談

実習室助手は臨床経験があり、かつ本学の卒業生ということもあり本学のカリキュラム精通し、前職は学生が多く就職する実習病院で看護師であったことから、就職活動を控えた学生から相談を受けることが多くある。学生からは実際にその就職先を選んだ理由、病院・病棟の雰囲気、新人のサポート体制など質問が多い。実習室助手が新人教育を終え、中堅レベル以上の段階であったことからこのような質問が多かったのではないかと考えられる。

2) 実習についての相談

学生が初めての臨地実習を前に抱く思いには「不安」と「期待」があり、これらは失敗や傷つくこと、看護学生のはじめての臨地実習に対する思いへの恐れと学生としての自負、受け入れられないかもしれないというおびえと触れ合いへの期待というように複雑に絡み合っている⁴⁾。このように学生が初めて実習に行くことは未知の体験であり、イメージがつきにくい。実際に臨床で実習指導を行っていた実習室助手に相談をすることによって、学生は実習中の自分の行動がイメージしやすく、不安の軽減に繋がっているのだと考えられる。

2019年度は3年生の領域別実習前に「実習前強化期間」を設け、看護技術だけではなく、実習中に不安に思うことを相談できるよう、領域別実習を終えた4年生のLAを配置した。また、2月には2年生の実習があるため、同様の期間を設けて支援する予定である。

IV. 実習室助手の支援体制についての学生の評価

2019年度は2019年5～7月にウェブおよびアンケート用紙にて学部448名を対象とした実習室アンケートを実施した。調査にあたっては、聖路加国際大学大学事務部教務・学生課に調査実施届を提出し承認を得た。

2019年度の調査結果（回答数198件、回収率44%）にて実習室助手の支援は行き届いていたかの項目では、そう思う・ややそう思うと回答した学生が88%と昨年度より7%上昇していた。自由記載は98件あり、「丁寧に教えてくれた」16件、「アドバイスをくれた」14件、「気にかけてくれた」12件などが挙げられていた（表1）。反対に支援が行き届いていなかったと感じた理由で3件の自由記載があり、「実習室助手の在室時間と自分の予定が合わなかった」、「実習室使用時に関わらなかった」、「来室時に助手さんがいなかった」という結果であった（表2）。

その他学生からは、現在の支援方法を継続希望、実習室助手の在室時間の延長や利用する学生数が多い場合に人員を増やして欲しい等の意見が挙がった。

表1 実習室助手の支援が行き届いていたと思う理由

丁寧に教えてくれた	16件
アドバイスをくれた	14件
気にかけてくれた	12件
常についてくれた	12件
質問しやすい	11件
親切	9件
質問に答えてくれた	8件
細かい指導	4件
見回ってくれた	4件
分かりやすい	4件
サポートしてくれた	4件

表2 実習室助手の支援が行き届いていなかったと思う理由

使用時に関わらなかった	1件
助手さんがいなかった	1件
自分の予定と合いにくい	1件

V. 今後に向けて

支援体制については、2019年度の調査結果より多くの学生が実習室助手の支援を受けて自己学習に取り組み、支援が行き届いていると感じている学生が多いことが明らかとなった。しかし、学生の来室を予測して実習室助手の在室時間を決定しているが、学生の予定と合いづらいという意見もあった。そのため利用する可能性が高い

学年に関しては、あらかじめアンケートを取る、何人かの学生に聞き取りを行うなどして、より学生のニーズに沿った在室時間を検討していきたい。今後も学生と共によりよい学習環境を目指していく。

支援方法は他の教員との情報共有を行いながら、それぞれの学年や学生個人に応じた支援を継続していく。本学は全ての学生に対して就学・生活・進路について、アドバイザー教員が必要に応じて個別の相談に乗ることを保証する制度がある。学生からは自己学習支援以外にも就職活動や実習についての相談のニーズが多いため、アドバイザーの教員など関係各位と連携しながら、実習室助手として支援を行っていきたいと考えている。

引用文献

- 1) 松谷美和子, 佐居由美, 奥裕美ほか. 看護系大学新卒看護師が必要と認識している臨床看護実践能力—1年目看護師への面接調査の分析—. 聖路加看護学会誌. 2012; 16(1): 9-19.
- 2) 聖路加国際大学学生生活ガイドブック2019. p.66-67
- 3) 中溝倫子, 佐居由美, 宇都宮明美ほか. 看護学部生の能動的学修を推進する実習室環境の整備. 聖路加国際大学紀要. 2017; 3: 73-8.
- 4) 前川利枝, 大石ふみ子, 櫻井しのぶ. 看護学生のはじめての臨地実習に対する思い—フォーカスグループインタビューによる分析—. 三重看護学会誌. 2006; 8: 131-6.